

富山県総合計画審議会 第3回未来部会 議事要旨

1 日時：平成29年10月17日（火）13:30～15:30

2 場所：県民会館8階バンケットホール

3 出席委員（五十音順）

金岡部会長、神川副部会長、内山委員、老月委員、大西委員、金森委員、小見委員、谷井委員、吉村委員、和田委員

関専門委員、武山専門委員、坪内専門委員、西野専門委員、藤田専門委員、村上専門委員

4 議事

- (1) 基本政策答申検討案（未来）について
- (2) 重点戦略の構成について
- (3) 長期構想について

5 発言要旨

(1) 知事挨拶

・ どうも皆さん、こんにちは。本日、富山県総合計画審議会の第3回目の未来部会を開催しましたところ、金岡部会長はじめ、委員の皆さま、大変お忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

・ 昨年12月に新しい10年計画を作りたいということで、審議会に諮問させていただいてから、「活力」「未来」「安心」「総合」の四つの部会、また各地域の委員会、それから若い世代の意見の反映ということで青年委員会等も開催していただきました。また、各地でタウンミーティング、またパブリックコメントなども追加されてまいりました。

・ 今日、未来部会ということでは第3回目、本日が最終の会ということになります。これまで伺いましたご意見、また他の部会や青年委員会あるいはタウンミーティングでもいろいろな意見が出ましたので、そうしたご意見をなるべく反映させたいということで、今日お示しする未来部会の関係の基本計画や、各分野を通じての重点戦略が5項目ございますが、これについても現段階でお示しできるたたき台をまとめましたので、皆さまから忌憚のないご意見、大所高所のご意見を頂ければと思います。

・ ご承知のとおり、少子高齢化、人口減少ということもございますけれども、一方で新幹線開業ということも、そういった議題に出して、富山県は東京のある大都市からもだいぶ認知度が高まって、移住先としてもかなり都市部の方にも割合顕著に目立つ県だということです。これから富山県にとって非常に大事な5年、10年だと思います。

・ 皆さまのご意見をいろいろ改めてお聞かせいただいて、せっかく作るのですから立派な計画になるように私どもも注力していきますので、どうかひとつよろしく願いいたします。それでは金岡部会長さん、よろしく申し上げます。

【事務局】

・ それではお手元の会議次第の次のページに、本部会の委員名簿がございますので、そちらをご覧ください。本日は委員 14 名の方のうち 10 名、専門委員 9 名の方のうち 6 名の方々にご出席をいただいております。その中で委員 1 名の方に交代がありましたので、私からご紹介させていただきます。読売新聞北陸支社長の吉村秀男様でございます。

【吉村委員】

・ 読売新聞の吉村です。6 月に大阪から赴任しました。本日はよろしく申し上げます。

【事務局】

・ 会議を始めさせていただきたいと存じます。会議の運営を金岡部会長、よろしくお願いいたします。

【金岡部会長】

・ 金岡でございます。会議を進めさせていただきます。この未来部会は 1 月 25 日と 4 月 26 日の 2 回開催しています。特に前回は基本政策未来の骨子案について、委員の皆さまの意見を幅広くお聞かせいただいたところでございます。

・ 先ほど石井知事からご挨拶がありましたとおり、若干時間が空いておりますが、その間富山県におかれましては、各委員会や審議会で議論、またパブリックコメントの収集やタウンミーティング、県議会議員との意見交換と幅広く意見集約をされて、今回のこの未来部会としての答申検討案をお作りいただいたということでございます。今回、これについて皆さんからご審議いただくということです。まだ最終の答申まで若干の時間がございますので、今日承った皆さんのご意見を、最新のものとして反映していこうというものです。併せまして、本日は「重点戦略」さらに「長期構想」というものをお示ししていただいておりますので、これについてもご意見を承るということです。

・ 今回が最後ということですので、一言だけお話しさせていただきます。少子高齢化が現実のものとなりまして、戦後作られたさまざまな制度、あるいは社会インフラの持続可能性が問われる時代に入ってきたと思います。この富山県におきましても、石井知事、渋谷教育長に大変なご尽力をいただいております県立高校の再編問題ということで、まさに社会インフラを少子高齢化の中でどうしていくか、非常に重要な議論ではないかと思っています。なかなかわれわれは、未来を見通すことができないですし、今ある現実、近い将来における現実というものになかなか向き合っていられないものです。

・ 実際、2 年半前にある大手の広告代理店が、インターネットで 1 万人の調査を行いました。何を聞いたかという、「皆さんが住んでいる地域の人口は今度どうなっていくでしょう。近い将来の見通しを教えてください」との質問です。何と 49.5%の方が、私の住む地域の人口は変わらない、あるいは増加していくと回答しているということです。また、人口 5 万人以下の中小の自治体においても、3 割弱の方が人口が増えていくという回答をされています。いかに将来を見通して、特にマイナスの面を見通して行動し

ていくのが難しいかということをお話していると思います。ここは未来部会でございますので、当然のことながら明るい希望に満ちた未来を願っているわけですが、一方確かな事実としての人口動態の予測もあるということをお話した上での議論を賜ればと思ふ次第であります。

- ・ それでは、事務局の方から資料のご説明をお願いしたいと思います。議事が三つございますが、これらを通して事務局からご説明をお願いしたいと思います。

(2) 資料説明（事務局より） 省略

(3) 意見交換

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。大変多くの資料について簡潔にご説明いただきました。それでは委員の皆さまからご意見、ご発言を承りたいと思います。以前は、四つぐらいのジャンルに分けて順番にご議論いただいたかと思ふます。最初の議題についてご意見のある方は挙手をお願いいたします。
- ・ これまで恒例というか、私の方から指名させていただきましたので、皆さまからご発言いただきたいと思います。申し訳ございませんが、私の方から指名させていただきます。最初に小見委員から、何かご意見がありましたらお願いいたします。

【小見委員】

- ・ 今回これを見させていただきまして、非常に今までの皆さんから出た意見をきちんと取りまとめて中に入っておりますし、私としてはこれでもう十分ではないかと思っております。今後はこれを基にどう県民に広めていくのか、そして充実されていくのかというところに問題というか、そこを楽しみにしていきたいと思っております。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。後ほどまたご意見があれば。それでは関専門委員、何かご意見があれば。

【関専門委員】

- ・ 政策面で、「20 多様なボランティア・NPO 活動の推進」という自分の専門領域についてのお話というか、ご相談です。NPO という言葉と NPO 法人という言葉が混在しており、捉え方に戸惑う気がしています。NPO は広い意味でも使われており、町内会であったり PTA 活動や宗教活動であったり、人によって多様なイメージで捉えられる場合があります。一つの段落のなかで、出てくる用語が NPO であったり NPO 法人であったりするので、使い分けが明確になるとありがたいです。NPO 法人というと、NPO のなかの限られた狭い領域に当たるので、両者の捉え違いが起きないようにご配慮いただけたらと思ひました。
- ・ 全体的には非常に具体的に施策が見えやすくなっているのので、恐らく県民の皆さんにも通じやすい内容になっているのではないかと読ませていただきました。以上です。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、引き続き大西委員。

【大西委員】

- ・ 私も資料を読ませていただいて、この部会の中で申し上げた意見も反映していただき、本当に素晴らしいものになっていると思います。他のいろいろな施策や全体像から派生するいろいろな新たな施策とかもうまく整合性が取れていくような内容になる計画を立てていただきたいと思っています。

【金岡部会長】

- ・ 後ほどまたお願いします。それでは、内山委員、お願いします。

【内山委員】

- ・ 公募委員をさせていただいております内山です。よろしくお願いたします。これまで出させていただいた意見を反映していただいて、本当にいいなと思っております。
- ・ 一つ私の方から、この重点戦略の構成にも入っています「災害に強く、環境にやさしい『未来調和型の県づくり』戦略」、もしくはこちらの部会ではないのですが、安心とやまの方に入るかもしれないのですが、先日子育てママのための防災の講演会に行ってきました。ママたちが20名ほど来ていたのですが、大半が富山は災害がないと認識しているママたちばかりでした。私も富山県は災害がないと思っていたのですが、実は皆さんはご存じだと思うのですが、断層もありますし、もしかしたら災害が来るかもしれない。気象も変わってきていますし、台風も大きなものが来るかもしれません。そういうところで、大人はそのまま逃げればいいのですが、子連れのママは子どもを抱えてとか、おんぶしてとか、いろいろな逃げる手段を備えていかないといけないと思いました。あまりに富山県人は無防備だったということもありまして、他の県は防災ママカフェとか、そういったようなものでママたちがどういうふうに逃げればいいのか、避難所にはどういったものを持っていけばいいのか、オムツがない場合にはどうしたらいいかといった準備をしているようです。
- ・ 富山は災害が少ないということだけではなくて、未来に向けてそういう備えもあるということが、富山県のいいブランドの発信にもなるのではないかと思いますので、そこら辺は何か取り入れていただけたらと考えております。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。順調に進んでおりますけれども、次に西野専門委員。

【西野専門委員】

- ・ すごくよくできていると思っております。私は特に男女共同参画社会づくりでいろいろ意見を言わせていただいているのですけれども、富山県はたくさんの女性に対する研修やイクボス宣言とか、企業に対してもモデル企業とかいろいろしているのですけれ

ども、これが最初のころは皆さんどこの企業も進んで取り組むのですが、それがある程度すると、これは何だったのかなど、2年後、3年後思うのではないのでしょうか。最初のころは、目的はこうだったということになるのですが、何年後かに、これは何のためにしたのだろうか、これはどういうためにあったのかということをお忘れのために、ずっと当初の目的を持ちながら続けることで、作った施策が役立っていくと思うのです。広報や広告とか企業にもずっとPRしていく必要があるのではないかと思います。

- ・ でも、書いてあることはすごく良いことで、私は女性なので女性に対してばかりになってしまいますけれども、富山県はどうしても管理職をやりたいと思う人が少ないと思っています。男性並みに働けるのはなかなか難しいと思います。だけどそこまでいくために、やはり私たち、富山県はせつかく計画に書いていますので、何とか皆さんにこういう機会を設けるためにいろいろなことを継続していく必要があると思っています。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。それでは老月委員、お願いします。

【老月委員】

- ・ 私も全体的に読ませていただきまして、大変素晴らしい計画になっていると思います。スポーツ専門でございますので、細かいことになりますが、そちらの部分で、お願いというか、意見を言わせていただきます。未来の19番の「全国や世界の檜舞台で活躍する選手の育成」の所で、裏のページの所に目標でオリンピックに出場する選手を目標として新たに挙げられたということで、これは非常に素晴らしい目標だと思って、大変賛成するという立場です。ただ後の説明の所に、本県出身選手という縛りがあるのですが、本県のアスリートの中には、本県で生まれ育った選手もおりますし、例えば私の向かい側に坪内専門委員もおられますけれども、坪内さんは昔旧姓でアテネオリンピックにホッケーで出られたオリンピックです。ご主人もトップアスリートですが、他県で生まれけれども富山県の選手として国体に出たり、現在富山県の子どもたちに指導して教えておられるということで、この出身という言葉ではなくて、本県選手とか本県アスリートという呼び方で大きく捉えて本県のアスリートを支援したり、そういう人たちがオリンピックに出るのをみんなで応援したいという立場を取ってはいかがかと考える次第です。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。それでは、今お名前が出ました坪内専門委員から一言お願いします。

【坪内専門委員】

- ・ 私もこちらを読ませていただいて、現状と課題の下に、そして今までの会議の意見が反映されていて大変素晴らしい計画になっていると思いました。あとはやはりこの政策目標を達成するために、いかにこの計画を進めていくかが重要だと思っています。以上です。

【金岡部会長】

・ ありがとうございます。これまで7名の委員の皆さまにご意見を伺いました。総じて大変素晴らしい計画だというご意見でございます。ただ、このまま賛成ばかりでは問題が浮かび上がりません。私は富山県経営者協会の会長も務めております。その立場から一つだけお話しします。

・ 答申検討案の資料1の中の3、仕事と子育てを両立できる職場環境づくりという項目があります。ご説明の中で、②企業への意識改革の推進とありますが、事務局から文言を変えさせていただいたというお話がございました。企業の立場でいうと、今現実には意識改革は相当に進んできていると思います。過労死の問題、電通の問題その他、むしろ問題となってしまうのは、こういった形で外形的に定めていくこともいいのですが、例えば大企業、大手の企業に対する残業規制を厳しくしますと、それが結局中小の方にしわ寄せになってしまう可能性もございます。それから、労働時間が非常に少ない国で発展している国でドイツがあります。確か1300時間ぐらいだったと思います。日本に比べて数百時間少なくなっています。それがなぜなっているかという、理由の一つが生産性が高いというだけではなくて、社会が非常に合理的な精神でつながり合っています。日本だとモンスター何々という方々がいて、それに対する大変な対応の労力、その他、時間がかかります。そういうことに関して、社会として合理的な選択をするという意識が社会全体に貫かれています。

・ 従って、この書き方はやや上から目線であって、特に大手企業にこういう外形的な形で意識改革を進めれば、物事が自動的に解決していくというものは私は決してないと思います。従って、このあたりは少し表現を工夫していただきたいというのが正直なところでございます。

・ それでは、続きまして、和田委員お願いします。

【和田委員】

・ 大変こと細かく出していただきまして、理解していくのが大変かなと思っております。何と言いましても、やはり子育ての願いがかなう環境づくりというものは、私は身に染みて考えていかなくってはならないと思います。やはり家庭・地域・企業、今後は力強く連携を取っていくということを望んでおります。

・ 今、県民参考指標候補案の目標値が空欄になっておりますが、この指標は大変大事なものであるかと思っております。私は今ほど目を止めたのは10ページ（資料1-2）で、【県民等に期待する主な役割】ということで、これは皆さん全体で考えなければならないことなのですが、特にあまり知られていない県民の所で、「里親制度等による家庭的擁護の推進に対する理解と協力」と書いてあります。その右側の里親委託率の現況は富山県は22.8%で、随分これは以前から見たら伸びたのではないかと思います。

・ 国もやはり8月にビジョンが打ち出されているかと聞いておりますが、やはりいいお子さんばかりの環境ではありません。こういった里親のところの、本当に大変な気の毒なというような、そういう子どもさんたちもいます。もっと国のビジョンに従って今どのように進めていかれるのか私も分かりませんが、もっともって県民の皆さんに里親

ということを理解していただく、知っていただくということが大事かと思えます。

・ 大阪や東京は大変多くの方々がそういう里親制度に協力していただいておりますが、富山県はまだまだ大変な地域でありまして、それだけ子どもが困った子がいないのかなと言えいいのか、それともあってもできなかったのか。そういう点も踏まえながら、この十何%ということが2年ほど前にあったかと思えますが、22.8%という猛スピードで委託されているということには敬意を表しますが、今後こういう里親制度のPRに理解を示すように県民をお知らせいただきたいと思います。以上です。

【金岡部会長】

・ ありがとうございます。それでは続きまして、この計画をある意味受け止められるお立場にもあるかと思えますが、富山県町村会会長の金森委員、お願いします。

【金森委員】

・ 先ほど金岡部会長もおっしゃいましたけれども、私も3番目の所で、仕事と子育てを両立できる職場環境づくりの中に、「企業」という言葉が出ています。というのは、やはり公務員とか地方公務員も対象には入ってくると思うのです。そうなれば「企業」というよりも「事業所」とか、何か適切な言葉も必要ではないでしょうか。と申し上げますのは、私も職員に対しては、育児休業を取ってほしいと、私の方から随分そういった支えを言っている立場にあるのでそういったことを申し上げるわけです。だから、私の理解が合わなかったら恐縮なのですが、そういったことに配慮いただきたいと思います。

・ それとこういった素晴らしい施策をある意味具現化すると、作り出すということは、やはりそれぞれの立場や役割とかがあるわけです。市町村ということでそれぞれ書いてあるわけですが、やはりそれぞれの自治体においても私どもも総合計画を打ち出しまして、それは大体10年のスパンになっているわけです。そういうこともありますので、県計画と市町村の計画との整合性を取りながらしていくということが私はベターだと思っております。そういった面から、「企業」ということで抵抗があったように思いましたので、申し上げた次第であります。以上です。

【金岡部会長】

・ ありがとうございます。それでは藤田専門委員、お願いします。

【藤田専門委員】

・ 全体に関して、とても見える、視覚的に捉えられるような将来設計がよく描けるような計画になっていると考えています。ただそういうふうに見通した場合、私の専門である生涯学習で気付いたところをお話しさせていただきます。実際のところ、県民カレッジはとても素晴らしい活動の蓄積がありまして、いろいろな取り組みをしていらっしゃいます。主な施策をいろいろ見ていきますと、「人材を活用し」というところが浮いている気がいたします。やはり人材育成という、地域の担い手を育てるところで、地域の担い手とか人材育成という、「育成」という言葉が使われてはいかがでしょうか。

・ 主な施策の2に書いている文面なのですが、(資料 1-2、P25)「県民の学習を支える基盤整備」の「県民生涯学習カレッジの地域人材を」という所ですが、ここに育成の言葉を入れたとしてもやはり「指導者養成や学習者の活躍の場」ということで少し具体的に下ろされているということが気になります。県民カレッジさん、やはり地域の人材の育成を実施していますので、この地域の担い手という所も少しポイント的に見える化して入れていただければと思います。

・ それから、ボランティアのことですが、県民学習活動の支援のボランティアという所で、学習活動の支援というだけではなくて、学習活動により学び合いという中のネットワークということがつなぐというのか、ネットワークの構築も視野に入ってくると思います。そうしますとネットワークの支援、そのようなつながりの支援という形の文言というものが必要ではないかと感じております。

・ 講座のことですが、学習の提供というのは、とても豊富に県民カレッジをはじめ、富山県でも公開されていると思います。ただ教養型講座というのが今までは多かったと思います。国の政策、文科省の政策につきましても、多種多様な講座だけではなくて、課題解決型講座、要するに地域に山積している課題に関して課題解決型講座というものにも取り組むべきとされています。課題解決講座の取り組みも視野に入れてもいいのではないかと考えます。具体的に書かれているというところもありますので、もう一歩進みまして書かれてもいいのではないかとと思います。

・ これは余談ですが、25ページの「生涯にわたる多様な学びの推進」という所の下に、社会教育調査のグラフとボランティア講師による「自由塾」という写真が出ています。カラー写真はとてもいい写真が出ています。これは、講師をしているだけではなくて、確か県民カレッジの講座 90 回、70 講座以上今取り組んでいると思います。講座の企画、そして講師もされているということで、やはり参加、参画型ということで、企画という言葉も入れますと、こういうことにも取り組んでいるものと県民に対してアピール、また目指す目標にもなっていくのではないかとと思います。とても見える計画、将来が描ける文言の計画になっております。以上でございます。

【金岡部会長】

・ ありがとうございます。10名の委員の皆さまにご意見を伺いました。富山県の皆さまに大変真摯にこれまでのご意見に向き合っていただいた結果、概ね素晴らしい結果になっているというお話があったと思います。それでは時間が順調に進んでおりますので、このあたりで石井知事から10人の意見を承ったということで、コメントがあればお願いしたいと思います。

【石井知事】

・ 全般に今部会長がおっしゃったように、内容的になかなか良くなったのではないかとご評価を頂きました。その中で幾つかご意見がありました。金岡部会長は経営者協会の会長をしているというお話でしたが、確かに子ども・子育ての所で、「企業の意識改革」という形の表現になっているのは、もちろん私も含めて、幹部共に経営者の意識改革ということは大事だと思えます。おっしゃるように、大企業だけそういう努力をし

ても、気を付けないと中小企業にしわ寄せがきてしまうと思います。

・ 昨日たまたま中小企業の皆さんとの対話で富山地区でいろいろご意見を伺った中にも同じようなお話がありまして、仕事と子育て両立とか、女性活躍の推進といっても、働き方改革といっても、従業員というか、社員の方がかなり数もいらして、それぞれの分野にお互いにカバーし合うような人の層がある場合はいいのだけれども、非常に少人数でやっている中小企業の場合にはなかなかそう理屈どおりにはいかなくて、なかなか大変だというお話もありました。

・ そういう意味では、意識改革ということももちろん必要な面かと思いますが、特にお話にあるのは中小企業の経営者や従業員の方が、しっかり実のある形で対応しやすくなるように、例えばこの後も経営者の皆さん向けに、全国レベルでこうした問題に精通している専門家に来てもらってセミナーをやっていただくとか、中小企業の皆さんを含めて、業種ごとに例えば製造業とか建設業とか分野によっても、仕事と子育てを両立するとか、女性活用といっても各論ではそれぞれ工夫すべき点、配慮すべき点がいろいろ違う面もあると思います。そうした業種ごとあるいは業界ごとにそういったセミナーやワークショップをやって、できるだけ幅広く中小企業の皆さんの世界でも働き方改革が進むように、女性活躍が進むように努力したいと思います。

・ また、お話の中にドイツの例を引かれて、向こうはあまり合理性のないモンスター的な行動や意見については、それはおのずからバランスとの取れた対処をする社会的風潮がある、そういう点がちょっと日本は足りないのではないかというご指摘もありました。そういう面も確かにあると思いますので、そういった点ができるだけまさに官民で協力して、いろいろなことを建前の言うだけではなかなか物事は進みませんので、そういったこともよく配慮しながら進めていきたいと思います。

・ また何人かの方から、内容は非常にいいのだけれども、要は実行だという話もありました。この点については、それぞれの分野について、今日は時間もないのであまり細かくは説明していませんが、県民参考指標なども作っています。従来は180ぐらいあったのですが、もう少し増やした方がいいかもしれません。現状でも実際に富山県の計画はよその県に比べるとものすごく細かくなっています、あまり細かくなりすぎてどうかと思うのですが、できるだけ具体的な方が一般の県民の皆さん、富山で特に各分野で自分に特に関心の深い分野については、どうしてもそこを精読されます。そうすると総論だけでは物足りないということになるので、そのバランスを取りながら、なるべく具体性のある、しかし全体としてあまり森に入って山が見えなくならないように、10年の計画ですので、今後の中長期の県政の基本方針ということですから、そこの方をうまくバランスを取りながら、ある型で一層、最終の案にまとめていきたいと思います。

・ それから和田委員のおっしゃった里親制度への協力が東京など大都市に比べて低いのではないかという意見がございました。もともと今の計画で11.7%、22.8%と言っているのは、国の目標値が16%なのです。ですから、それよりも高い目標値をやっておりまして。今の都道府県別の里親等の委託率を見ますと、むしろ京都とか大阪とか神戸とか、あるいは東京などは全国平均よりもかなり低くて、富山県などは当然全国平均よりも高くて、この数字は、時点の違いがありますから、多分富山県は全国平均ぐらいか若干、高い方で、一番高いのが静岡県です。ですから大都市に比べて低いことはない

と思いますが、できるだけお知らせ等も一層気を付けるようにしてまいりたいと思います。

- ・ それから金森委員がおっしゃった「企業」というより、「事業所」ではないかというお話もありました。それはつまり民間企業だけではなくて、公務員の世界にも同じ問題があるという趣旨でおっしゃっているのだと思います。その件はおっしゃるとおりで、事業所と一般的に書くのがいいのか、民間企業も、こういうあるいは行政もというふうに書くのか、ケースによってまたよく考えてみたいと思います。

- ・ それから、人材の活用だけではなくて育成も大事ではないかとか、あるいは人のネットワーク、つながりの支援とか、いろいろなお話がありました。こうした点は先ほど申し上げたように、この10年間の県政の基本方針を示している総合計画の趣旨からいって、どこまできめ細かく書くかということでもあります。ご指摘の点はよく踏まえながら、全体にバランスの取れた計画になるようにしなければいけないと思います。

【金岡部会長】

- ・ 知事ありがとうございます。それでは引き続き皆さまのご意見を伺いたいと思います。村上委員。

【村上委員】

- ・ 主に未来1で意見を言わせていただきましたが、行政の作られる文章ですので、すごくきれいな表現になっておまして、若いころから人生設計について考える、発達段階に応じたライフプラン教育等の推進が求められるという文章になっています。主な施策の中には細かく書いてありますが、子どもを持つ人生を描いている場合には、妊孕性（にんようせい）の高いうちに結婚出産を考えたほうが良いということを教育の中でより具体的に教えていってあげたいと思います。

- ・ それからお子さんたちが生まれた後、経済的なことも若いご夫婦たちにとってはとても重要なこととなります。市町村で行う乳幼児に対しての事業が多い中、県独自で行っていただいている事業として、7ページの子育て応援券による保育や保健サービスが受けられるというものがございます。これは、県で行う企画と単独で行っていただける事業だと思いますけれども、ここに「充実」という言葉がありまして、これはもしかしてこの10年の間にひよっとしたら増額してもらえるのかなという期待を持っております。

- ・ 第1子、第2子で1万円、第3子から3万円、だけど第3子を産むためには、第1子と第2子の育児にゆとりがあって楽しいという思いがあってこそ第3子だと思います。ここは数値になっている目標値がたくさんあるのですが、子育て応援券は全国的に見てもとても注目されておりますし、お母さんたちにもうんと分かりやすい指標です。ここで全員3万円ということを考えていただけるといいかと思います。

- ・ そして、子どもたちの育成に保育士さんの不足や学校の中で教員の先生方、養護教員の方がどれほど多忙かということを実感しております。法律で決まっているような、そういう人員だけではなくて、その他何か特別枠としてそこら辺を付けていただけるようなものがこの文章の中に入っているとうれしいと思っています。以上です。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。続きまして、皆さまのご意見を相当お聞きになられたかと思しますので、初参加の吉村委員、何か一つお願いします。

【吉村委員】

- ・ 初めて参加させていただいて、いろいろ聞かせていただきました。実は事前に資料を頂いて勉強してショックなことが一つありました。検討案の 20 ページの参考指標候補案で、「子どもの教育において、家庭が役割を果たしていると思う人の割合」というのは、平成 23 年 10.6%で、やはり富山県はしっかりした教育県だと思ったら、5 年後には 36.1%に跳ね上がっているものですから、これはどういうことかと非常に疑問も感じました。そういうこともあって、今回の未来部会では非常に重要だと思って参加させていただきました。
- ・ やはり家庭の教育も大事なのですが、教育はやはり県と市町村が一番重要だと思います。しっかり投資すれば未来は必ず返ってくると言われていますので、この未来部会で教育の面をしっかり県にやっていただければという願いを持って今日参加させていただきました。あんまり家庭が教育で重要になると、首都圏に逃げられてしまうという恐れもありますので、せっかく子どもが増えても、どんどん首都圏に人材流出することも、新幹線もできておりますので、ここは若干気を付けた方がいいかと、私は大阪生まれの東京に長い間いるので、都会で家庭での教育を充実をさせなければ駄目だと捉えている人を非常に多く見ているので、むしろ富山県は住んでいるだけで県と市町村がしっかりと教育してくれるのだという未来の図が描ければすごくいいなと期待して参加しております。以上です。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。それでは谷井委員、お願いいたします。

【谷井委員】

- ・ 今までいろいろ意見を皆さまからお聞きしたのですが、私は家庭教育が今の私たちの子どもには少し育てるのに欠けていたかなという思いです。まず私は子育てするのに一番気を付けていることは、家族そろって食事をする、そして大きい声であいさつができるという子育てを目指しておりました。それで素直に育ったかなという思いでございます。
- ・ 今朝は学校に行く子どもたちに「おはよう」と声を掛けるのですが、変なおばさんが声を掛けたと言われる時代です。それで、家族そろってあいさつをするということは大事ではないのかなという思いであります。家族そろってご飯を食べる。そうしたらいろいろな話題が生まれるのではないかと思います。いじめとかそういう問題も話題に上げて、命の尊さとかを家庭教育で学んだらいかがかと思ます。
- ・ この取り組みの中で一つ私が思ったことですが、富山県におりましたら情操教育、例えば美しいものを美しいと感じる、今美術館を新しく造っていただきましたけれども、あそこは子どもたちもいろいろなことが経験できて、素晴らしい美術館に仕上がったと

思っています。今度は、都会に比べると美しい音楽やそういうものを聞く機会が少ないように思います。県が主催されて美術館で子どもたちを対象に素晴らしい音楽、演奏などを聞かせていただけるような企画も立てていただけたらと思っております。またよろしくお願いたします。

【金岡部会長】

- ・ 続きまして、武山専門委員、お願いします。

【武山専門委員】

- ・ 各目標についてはとてもよくできていると思って見ております。先ほどから出ております具体化です。目標値を見ると、どうしてもばら色に見えてしまいます。冒頭会長がおっしゃったように、これから人も減る、予算も減っていく、行政もコンパクトにならざるを得ないというところで、これだけ多くの支援をきめ細やかにできるのかなという思いがあります。裏の方に県民の責務とかいろいろ書いてありますが、それは当然として、でもいきなりパイを投げられても県民もやりようがないので、ではどういうふうに行行政とあるいは企業と県民が連携してやっていくのか。そういうことへの言及が必要なのかなと思います。従来から総合計画というのはこういう形で成立しているものだろうと思いますけれども、こういう状況にあってやはり総合計画の位置付けが、盛り込む内容そのものも見直してもいいのかなと感じる次第です。

- ・ 重点目標の所に五つほどありますが、このあたりでも結局戦略が状況説明と希望にしかなくて、ちゃんとした戦略になっていないのではないかと思います。例えば一つ目、「とやまの価値創造戦略」につきましても（資料2 P2）、新幹線に言及したのですが、別にこれは言われてなくても状況はそんなことでしょうと。横に「相乗効果」とばんと赤字で書いてあるのですが、では具体的に新幹線の沿線のどういう都市とどんな連携をしたらこういう相乗効果が生まれていくのか。具体は無理にしても、戦略の観点はぜひ触れていただきたいと思います。

- ・ 「大ゴールデン回廊」と書いてあるのですが、「大」は何を意味しているのかよく分らない。「ゴールデン回廊」もよく分かりません。そういう分らない文言ではなくて、もっと分かる言葉を使っていただきたいと思います。細かいことはいろいろありますけれども、基本的には戦略というものをしっかりと出していくということが不可欠ではないかと思ます。以上です。

【金岡部会長】

- ・ はい、ありがとうございました。それでは1周するご意見の最後ということで、副部会長を務めていただいて教育・子育てに詳しい神川委員、お願いします。

【神川委員】

- ・ 皆さんと同じことになるかもしれませんが、3回議論を重ねてきて、ここの構成メンバーの意見もかなり反映されておりますし、パブリックコメントやタウンミーティングの意見などもそれぞれの適切な場所に反映されているのかなと。ここまで総合計画が

きめ細かいというのがどうなのだろうと、細かすぎる感じもしなくはないのですが、中身が具体的に分かるような書きぶりということで、私は総合計画にしては非常にきめ細かく、丁寧に書かれていたなと思っております。

- ・ 全体的には3段階で、総合政策、基本政策、重点戦略ということで、重点を整理されたところで中身はともかく、今武山先生がおっしゃったように、中身のことについてはもう少し吟味が要るかと思うのですが、さらに長期構想についても今回掲げられたということは、すぐに私たちができることではないのですが、私はこれを大学に持ち帰って学生に配って、ここにある七つの項目について、あなたはどの部分を将来担当しますかと言いたくなるような夢が持てるものではないかと思っております。

- ・ それぞれ全てをやるというのは、県民においても一人一人の人間においても難しいと思うのですが、自分はこの部分を重点的に目標としてやっていきたいという、県民または構成員の主体的な活動をこれから促していけるのではないかと思います。部活動のようにどこかに所属して、徹底的にこれについて課題解決型に考えていくということも、例えば高校生でもできるのではないかというふうに思いながら、これらの資料を見ておりました。

- ・ それから基本計画の方も非常に分かりやすくなっているのですが、私は先ほどから議論になっている「企業への意識改革」の部分ですが、ここには一つ思いがあります。いろいろな立場の人からの目線を見たときに、日本は日本で培ってきた企業の土壌みたいなものがあるので、案外ドイツのようにはいかないのかもしれないという部分があります。どうも勤勉性とか根性論とか精神論みたいなものが長い時代の中にあっただので、すごく頑張っ、苦しくても我慢して文句言わず働いている人が美德みたいな考え方はこれからはいけないのではないかと思います。書きぶりはどうしたらいいのか分かりませんが、雇用者側の意識改革という意味で、新たにどの時代でも背景が変わっていくわけですから、研修をしていただく、また大企業の経営者の方々みたいに、いろいろな場面で刺激を受けてこられる方々と違って、1カ所ですべて頑張っ、こられた方々の意識を変えていくのはなかなか難しいところもあります。そういうところは自分たちのところから飛び出した研修を受けるとか、意識改革をするチャンスも提供していかれるといいと思います。そういう意味で「イクボス」とかいろいろな宣言がありますので、そういう形で意識をもっと共通に変えていく。私はいつも思うのですが、女性が輝けと言われるけど、輝くためには輝かせる人がいないと輝けないので、輝くということは下手すれば疲弊することだと、輝くだけ頑張ろうと思ったら疲弊するところもあるので、共通理解が要するという意味の意識改革が必要だと思っています。

- ・ 細かいところは特に何もありませんけれども、よくこれだけのものを網羅してまとめたいただき、10年後、20年後、遠い将来まで見通していただけたと思っています。

- ・ 一つだけ質問します。「海のあるスイス」（資料2、P2）というのはどこから出てきた言葉なのですか。先日富山市の総合計画の会議に行ってもこれがあつたので、私はそのときに初めて聞いて、そのときは質問しなかったのです。スイスというのは目標なのかと思ったときに、「海のない富山」にしてもらったらいいのではないかと思うぐらい、では「雪の降るハワイ」でもいいのではないかというぐらい、スイスというのは確かに「スイスに行かなくてもいいじゃないの、立山連峰を見ていけば」と言われるのですけ

れども、この言葉がどこから来たのかなというのを、前回市で初めて見て、ここで初めて質問します。

【金岡部会長】

・ ありがとうございます。これでちょうどまた皆さまからひととおりのご意見いただきました。ここで、少し時間の余裕がございますので、石井知事からまたご意見を頂けたら、コメントを頂けたらと思います。

【石井知事】

・ それぞれ貴重なご意見ありがとうございました。谷井さん、その前に村上委員さんからもありました。いずれにしても子育て応援券の施策も大事だと思うのですが、今政府の子育て支援施策を、選挙の結果、どなたが政権を担われるかということももちろんあります。今の政府与党の基本が維持されるとすると、子育て支援については保育料がなくなる問題もありますので、相当思い切ったことをおやりになるような動きになるのではないかという気もします。そういった国の政策とのバランスも取りながら考えていきたいと思います。

・ この応援券はご評価いただいているのですが、確かに全国でこういうことをやっている県は富山県だけです。すごくいい施策だとおっしゃっていただく方が非常に多くなりましたが、最初のころは例えば医療費の無料化とか、実際の使い方を柔軟にして、家庭に定額給付をするよりむしろ、現実に必要な出費の方をする方がいいのか、いろいろなご議論がありました。ですから今後、子育て世代に対する支援をどういうふうにしていったら一番バランスがいいのか。そういう給付的なことも、例えば保育料であったり、医療費は中学3年生まで無料になっていますからもういいのか、また税制の面での優遇措置がいいのか、また大学生についても特に所得の低い人にはもっと支援するとか、いろいろな議論が出ています。そういう中で、国全体の政策も踏まえながら、富山県としてどういうふうにしていったらいいのかよく考えたいと思います。それから、実は子育て支援、少子化対策の県民会議というのがありますので、そういった場でも議論していただきたいと思います。

・ それから吉村さんが言われた、家庭が役割を果たしていると思う人の割合が、10.6%から36%になっていてショックを受けたとおっしゃられるのですが、ご趣旨は、これがいかに学校教育より家庭教育が大事だと言っている人が増えたという意味に取っていらっしゃるのかもしれませんが。私の受け止めは、学校教育が大事なのは当然で、私は今でも富山県の教育は全国でも本当にトップクラスだと思っています。これを何か家庭にどんどんしわ寄せしようということは爪のあかほども考えたこともありません。

・ むしろそれは当然なのだけれども、谷井さんがおっしゃったように、しかし子どもの教育というのは本当に学校とか何かに丸投げでいいのか。やはり家庭でもしっかりと家族そろってご飯を食べて、そこでコミュニケーションを取るといった話もありました。そういうことの方がいいのではないかと。そこをおろそかにすると、いくら学校の先生が超過勤務、教育がどうと言って一生懸命頑張っても、どうしても越えられない問題があります。そこで、最近では、やむを得ずですけども、カウンセラーだけではなくて、

スクールソーシャルワーカーみたいなものも置いて、家庭の問題まで学校で対応するようにしているのですが、それはそれで必要なことはやりますけれども、もう少し家庭に頑張ってもらいたい、本来は担うべき役割になってほしいのです。

・ その点では神川先生はおっしゃいませんでしたが、神川委員に中心になってもらって、これで10年ほど前から富山県は「親学び講座」をやっているのです。これはスタートが大阪だったのですが、今大阪はやっていないのではないのでしょうか。今富山県が日本で一番熱心にやっていると思います。これは、最初は小学校低学年を中心に始めていたのですが、今は高学年もやっているし、中学生もやっています。最近は幼稚園や保育所の方もぜひ活用させてほしいということで、それも普及させています。これは親御さんがすごく喜ぶのです。昔と違って核家族が多いせいもあって、あぁいったものを一度お時間があったら自分でやってみようというと思います。私もやってみて非常にいいと思ったのです。そういうことで、みんなであるシチュエーションのときに、子どもにはどう向かい合ったらいいかということを中心にみんなでディスカッションして、あるべき姿をお互いに模索して、そういう姿が富山県で今進んでいます。私はそれだけではないと思います。この10.6が36になったというのが私はむしろ素直に喜びたいです。ただ、こんなに上がったかなという気はします。家庭教育にはまだまだ課題があると私は思っています。

・ それから谷井さんの情操教育が大事だという話がありました。ちょうどいいご質問だと思ったのです。せっかく富山県美術館を造ったのですが、私はかねてから美術館は美術館、文学館は文学館、音楽は音楽と固定するのは良くないと思っています。近々10月下旬になりますが、今度富山県美術館のホワイエで音楽会をするのです。子どもさん向けということではありません。それから学校の子どもたち、特に小学校の子どもたちに別途今までもやっていますが、こちらから若手の演奏家を何人か派遣して、ご希望があるところへなるべく巡回するということになっています。美術の世界も「アートとデザインをつなぐ」という方向を打ち出しています。音楽、それから「高志の国文学館」、こういったものもお互いに連携して、もちろん市町村の施設もそうですが、できるだけ総合的に子どもたちに、幅広い文化に関わる教育、情操教育を進めていきたいと思っています。

・ それから武山さんがおっしゃった、「ゴールデン回廊」という意味が分からないという件は、部分で説明しているからで、活力部会の方では、例えば「大ゴールデン回廊」はこういうことですよということも少し丁寧に説明しております。

・ 同時に神川委員からも言っていただきましたし、私も先ほど少し言ったのですが、正直普通の県の10年計画と比較するとすごく富山県のものはきめ細かくできているのです。どうしてもやはり読む方は全部通してご覧になるのではなくて、ご自身に関心のある所をむしろ精読される傾向が強いです。そうするといくら総論だけは立派なことを書いてあっても、ここで頼りないとなるので、なるべく具体的な、全部は無理けれども、代表的な所を例に挙げて、少し具体的に指標を書く。だから県の職員は割にまじめなものですから、それを一つ最初に入れるとみんなそれに書いてしまうので、膨大な計画になってしまうのです。ですからそういう点はあまりきめ細かくやりすぎると、森を見て山が見えなくなってしまうということもありますから、そこはバランスを取って進

めてまいりたいと思います。

- ・ それから神川委員がおっしゃった長期構想は、ぜひとも学生さんに課題でも出していただいて、いいアイデアがあれば聞かせていただきたいと思います。

- ・ それから、企業には金岡部会長のように立派な方もおられれば、なかなかそこまで引き上げようと思っていないという場合もあるかもしれません。電通の事件もありました。ですから改めてみんな一生懸命やっというだけじゃなくても、やはり今の時代にふさわしい意識を持っていただく、そういう意味での必要な場合もあるでしょう。

- ・ 先ほど申し上げたように、さはさりながら、特に規模の小さい企業の経営をされている方は、極端に言えば今だいぶ良くなってきたと思いますが、3カ月後、半年後には会社をたたまないといけないかもしれないということもあるわけですから、そういった方々のことも念頭に置いて、意識改革ということもさることながら、そうした企業でもできるだけ現場で取り入れやすいような知恵や工夫を、あるいは今言った行政からの支援をしっかりと進めていかないといけないと思っております。

- ・ それから「海のあるスイス」はどうして出てきたかということですが、これは他の人も何かあるかもしれませんが、私の認識としては、かれこれ10年ほど前になりますか、スイスの大使館の相当トップと言ってもいい方とお話ししました。「スイスは本当に山岳観光で世界的に素晴らしい」と私が申し上げたら、「石井知事、でもスイスには海がない。富山県には山があるだけではなくて海があるじゃないか」と言って、その方は私を励ましてくれたのです。社交辞令もあるかもしれませんが、大変ある意味では力づけていただきました。

- ・ それからもう一つインドから、日本で言うと経団連に当たる組織があって、そこの副会長さんが東京にいらしたついでに富山県を訪問されるということで、20人ぐらいでいらっしゃいました。そのときに、インドもヒマラヤとかいろいろあるわけですが、「富山県には山だけではなくて海もある」という話をいたしましたら、その次にインドに私が訪問したときに、その方が気を使って、インドの経団連のトップの方が、インドの経済界のお歴々の前で、「皆さん富山に行ったことがありますか。富山県はスイスのような素晴らしい所で、それにしかも海があるのです」と言ってくれました。すごく記憶力のいい方です。というエピソードがあって、職員がいろいろ気を利かせてこういうことを考えているのではないかと思います。富山市がお使いになっているというのは初めて聞きましたが、そういう10年間のいきさつがありまして、ご理解たまわりたいと思います。

【金岡部会長】

- ・ はい、ありがとうございます。順調にご意見を賜りました。まだ少し時間がございますので、続けてご発言いただきたいと思っております。

- ・ 私の方から一言、私事で恐縮でございますが、今年の6月から富山国際学園の理事長を務めております。大学、短大、附属高校、附属幼稚園ということで、恥ずかしながら教育者の顔を持つようになったわけです。就任早々、学内の教職員に学園報を書けということで書きましたところの一つが、日本の若者の死因の第1位は自殺なのです。これだけ世界に誇れるような素晴らしい国になっていて、そして素晴らしい国だという

ことで、多くの外国人、中国、台湾、韓国の方、そしてまた欧米の方もどんどん来ていただいている国であるにもかかわらず、どうして若者の死因の第1位が自殺なのかということは、やはり考えなくてはいけないのではないかと思います。

- ・ 短い文章ですけれども、その中で書いたのは、やはり社会全体が儒教の影響なのか分かりませんが、若者を子ども扱いしすぎる。今18歳選挙権になったわけですので、18歳になれば世界的に見ればもう立派な意思決定ができる大人だという見方にもかかわらず、社会の物の見方が、いまだに学生に対しても子どもたちとか、本当に若者の意見を捨て去るとするのは大げさですが、若者の活躍を阻むような社会の雰囲気は、やはり日本の中に非常に色濃く残っているのではないかと思います。これは危惧しております。

- ・ 6月に就任しましたので、本来であれば1回目か2回目に申し上げるべき意見なのかもしれませんが、未来はそんなに暗くない。特に富山県は、日本海側随一の産業集積がございますし、石井知事はじめ皆さまのご尽力で、本当に日本の中でも素晴らしい地域に生まれてきております。この地域と共に生きていくということは素晴らしいという、未来の明るさをもっと強調するトーンが全体にないと、大マスコミの方も来ていただいています。マスコミの論調はどちらかというところインパクトを求めて、未来はこんなに暗いという書き方をされるケースが多いのですが、実際にあまねく広く世界を見てみれば、こんなに素晴らしい国はないわけです。それなのに若者が悲観するような、閉塞感に包まれる社会は、何とか変えていかなければいけないと思います。この中に具体的にどう書いていただければいいという気持ちはないのですが、やはり持っているトーンとすると、もっと若者に活躍の場を与えていくという視点が必要なのではないかと思います。

- ・ まだ若干時間もございますので、1周して、小見委員、いつも都市計画とかいろいろお話しいただいていましたので、もう1度何か通してご意見があればお願いします。

【小見委員】

- ・ はじめに第1回目に、景観に対してお話ししたと思います。私は9月に台湾に行ってきたのですが、その往復の飛行機の中で台湾人の観光の方が非常に増えてこられたという感じを持ちました。やはりその中でも立山に行くとか、富山県を観光する方がほとんどです。その様子を見てみると、すごくうれしいなという気持ちになってきました。

- ・ 先日のNHKの放送「ブラタモリ」で、立山、黒部、黒四ダムから放送されていたのですが、やはりそれを見ているとすごく富山県人として誇れるというか、多分長野から入って黒四を経て、立山から富山へ下りるというルートだと思うのですが、やはり富山の景観というのは非常に重要になってきているのかなと思いました。

- ・ この中でやはり景観に関して、十分に皆さんにも配慮いただけたらいいなと思っています。特に気になるのが広告だと思います。屋外広告等は、富山でしたら薬がありません。そういった薬を本当に富山らしさを出すような看板であってほしいし、あまり過大すぎても困ります。やはり皆さんが見て、気持ちの良い広告であればいいなと思います。そういう観点からも、景観というのは非常に一般に一番目につくところですから、そういうところをこれから気を付けて、美しい富山県としてなっていくといいなと思っています。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。予定より 15 分ほど早く進行しておりますが、これだけは言っておきたいという方。

【武山委員】

- ・ デザインの関係から発言させていただきます。重点戦略の構成の資料が私には目がちかちかして、なぜこんなに色を使うのかと思ってしまいます。たくさん情報があるので、それをしっかり整理していただかないと頭の中に入ってこないということがあります。むしろこのダイジェスト版の方はすごく読みやすいです。内容がインデックスでちゃんと整理されているし、それぞれの情報もちゃんと見えてきます。
- ・ こちらは 1 ページ目が、赤が相乗効果になっていたり、2 ページ目は緑やオレンジもあるし、次は黄色で赤になっているとか。こうなるとどこのページのどれが大事な情報なのか全く分からなくなります。むしろこれから白黒 1 色でやっていただいて、どれが大事なのだらうとお考えになったときに、一番大事なものは一番大きな文字にしていただく。それぐらいの方がむしろ情報デザインとしてはいいと思います。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。確かに盛り込みすぎて、なかなか重点が分かりにくくなるということもございます。他に。

【神川専門委員】

- ・ 先ほど武山委員の方からも「大ゴールデン回廊」ということで、分からないということが出ていました。知事も活力部会でそれが出ているようなことをおっしゃられたのですが、私もこれは分からないのです。「大ゴールデン回廊」は一体どういう意味なのか。時間があるようなので少し説明していただけたらいいかと思えます。

【金岡部会長】

- ・ 石井知事からお願いします。

【石井知事】

- ・ これは、お手元に詳しい資料はありませんけれども、日本の人の流動を見ますと、大体東京から名古屋、京都、大阪に年間大体 1 億 2000 万人ぐらいの人が流動しているのです。しかし今までは、東京から富山を含む北陸に、新幹線開業前は大体 600 万人ぐらいしか来ていなかったのです。2 桁違います。新幹線ができて、新幹線に乗っている人だけ言うと 3 倍になったのですが、その代わり飛行機とかバスで移動したりする人が若干減っていますから、大雑把に言うと統計が 1 年間か 2 年ぐらい遅れていますが、新幹線開業後で、東京から北陸に来る人が 900 万人台、もうじき 1000 万人ぐらいになるのです。それでもまだまだ日本列島の流動から言うと、太平洋側、東京、名古屋、京都、大阪が圧倒的です。しかしこれが、あと 5 年半で敦賀までつながり、それから政府の従

来のスタンスだと、京都、大阪につながるのは30年後のはずなのですが、そうならざるを得ないのですが、それを何とか13~4年ぐらいで京都、大阪につなげてほしいという目標もあって、おかげで昨年から今年にかけてルートも決まりました。

・そして幸いにして京都、大阪につながったとしますと、例えば今まで関東で京都、大阪に行くときは、東海道新幹線に乗っていた人たちが、埼玉県だけでも人口は700万人ですが、北関東は群馬とか栃木、茨城を合わせると770万人ぐらいいるわけです。さらには、仙台から今富山で大宮乗り換えだと3時間弱で来れます。そうすると、京都、大阪まで来る新幹線につながりますと、別途リニアの問題ももちろんありますけれども、埼玉とか北関東とか南東北の人が、今まで東海道新幹線に乗って京都、大阪に来たけれども、往復かどうか分かりませんが、片道ぐらいはいつそ北陸新幹線で行こうかという人が結構増えるのではないかと考えています。単に通過するだけではなくて、せっかく大阪に行ったのだけれども、帰りは北陸新幹線で、週末になったから金沢とか富山で降りてみようかということになる可能性が結構あるし、またそういうふうにしていかないといけないです。

・そうすると将来は、東海道新幹線と北陸新幹線が、いわば大きな山手線のような形になって、ここが人口が今6500万人から6600万人です。人口減少時代とはいえ、あと12~13年ぐらい経つと6000万人ぐらいの人口が集まる。しかもそれは東京、名古屋、大阪のようないわゆる大都市だけではなくて、自然が豊かで美しく、そして歴史、文化もそれなりに多彩で、かつ富山県で言えばものづくりの伝統もあって、進取の気性に富む、粘り強い県民性の人たちがそこで日々意欲を持って働き暮らしている、そういう地域社会ができてくるのではないかと。

・現に、今の段階でもいろいろPRもしているという面もありますけれども、Uターン率が上がるだけではなくて、東京などから富山への移住がすごく進んできているのです。一生懸命努力しても、8~9年前までは富山に移住する人は200人ぐらいでした。いろいろな経過がありましたのでよく覚えているのです。しかし最近では、3年前から400人を超すようになって、3年前が411人、2年前が460人、去年は565人になりました。うれしいのは、この565人のうち、熟年の方に来てもらってもいいのですけれども、若い人、20歳代、30歳代の人、今7割になっているのです。中にはお子さん連れで来る人もいます。こういう方に年に1回、いろいろお話する機会があるのですが、どうして富山県を選んでくれたのかと聞くと、富山県はしっかりした働き口が見つかりやすい。それから住宅環境がいい。もう一つは子どもの親から、東京などに比べると子育ての環境がいいと。それ以外にも食べ物がいいとか、教育水準が高いと言ってくる人もいます。今そういう時代になりつつあるのです。

・ですから、そういう富山県のポテンシャルというものを、北陸新幹線を早く京都、大阪までつなぐことによって、かつそれだけではなくて、ものづくりももっともっと世界に羽ばたくようなものにする。幸い医薬品産業でも1位になりました。さらに飛躍させるために今一生懸命やっています。それからそれ以外のものづくりでも、世界的な企業もありますし、ある分野で見ると世界シェア100%という企業も結構あるのです。そういう富山県です。農業もどんどん革新していきたいと思います。私はそういう意味では、この大きな「ゴールデン回廊」の中で、富山県が単なる東京の郊外になってほしく

ないのです。そうではなくて、やはりそこに規模は小さくても「大ゴールデン回廊」の中で、今言った自然、歴史、文化、産業、人といういろいろな面で存在感のある未来に希望が持てる県として存続、発展してほしいと思っています。そういうのが私の回廊の夢です。

- ・ なぜ「大ゴールデン」の「大」なのかとおっしゃいましたが、それは世界的に見ても6000万人を超すような人が集まって、これだけ高密度に交通ネットワークがあって、産業も盛んで、歴史的な、文化的なものも非常に豊富にあります。そして、安全で環境もいい。あまりこういう所はないのではないかと思います。また、今もし足りない面があればそれを補って、ぜひ「大ゴールデン回廊」と言われるようにしていきたい。こういう思いがあってそれを表しているわけです。

- ・ もちろん委員の中に違うご意見の方がおられれば別にいいのですが、ぜひご理解いただいて、そういうビジョンを持ったメッセージにさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【金岡部会長】

- ・ 石井知事、恐縮ですが、ちょうど時間となりましたので、閉会に当たり、一言、ご挨拶いただければと思います。

6 閉会

【石井知事】

- ・ 十分話させていただきました。今日は本当にありがとうございました。よろしくお願いします。

【金岡部会長】

- ・ ありがとうございます。冒頭、知事あるいは事務局からお話がありました、未来部会としては最後の部会ということになります。今後の予定ですが、審議会等が来年1月ぐらいに予定されておりますので、そこに向けて最終の答申案をまとめさせていただきます。なお、選挙も控えておりますし、国の動きが何か指針が出るかもしれないという可能性もございますので、今回部会は今日で最後とさせていただきます。何か状況の変化、今日お伺いした意見は反映させていただきまして、情勢の変化があった場合には事務局と副部会長の神川委員、私の方で、最終案の取りまとめをさせていただきたいと思っています。これはご了解いただけますでしょうか。

(委員から異議の声なし)

- ・ ありがとうございます。なお、最終答申案につきましては、出来上がり次第、また委員の皆さまにご送付して、ご確認をお願いする予定です。それでは事務局にお返しします。連絡事項があればお願いします。

【事務局】

- ・ 本日も長時間にわたり、委員の皆さま方には数多くの貴重なご意見を頂戴いたしまして本当にありがとうございます。時間の関係で意見を十分に発言できなかったという方がいらっしゃるかもしれません。そのためにお手元にご意見の記入用紙を配布しておりますので、後日事務局の方へ郵送、FAX、メールでもよろしいので、ご意見を頂戴いただければ幸いに存じます。
- ・ 今後について、総合部会を経まして、1月から2月には審議会を開催して最終答申を取りまとめていただく予定となっております。私からの連絡は以上です。

【金岡部会長】

- ・ それでは皆さまには長時間にわたり議事の進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。本年1月以来9カ月間、3回にわたり、本当にご熱心なご議論、意見を頂戴したことを改めて感謝申し上げます。部会長として厚く御礼申し上げます。それでは、これにて本日の会議を終了させていただきます。